

# 日詩



仲薰 (leprechaun)

## はじまりの街

---

いつだって

僕のはじまりの街にいたのだ

ただそれがはじまりだとは、気が付かずに。

## 向日葵

---

空であったころ  
わたしに託された  
黄金の腕輪

かぎりなく澄んだ  
海を見ている  
一輪の日時計

夏の森に咲く  
さかしまの影絵

ありとあらゆる  
光の凝縮と重みを  
静かに湛える  
存在の淵

夏の終わりを走る  
麗しき闇

嵐の後の  
さびしい  
水あと

水をください

---

水をください

私という器を

水で満たしてください

その時私は私になるでしょう

あなたの手をすり抜け

夜を旅する水鳥になるでしょう

だから泣かないでください

私は光なのですから

この天いっばいに広がる

あなたなのですから

## じごくのさあかす

---

それはただのさあかす  
なんのへんてつもない  
ただのさあかす  
ぴえろはわらい  
ぶらんこはとび  
らいおんははねる  
なんのへんてつもないさあかす  
こどもはさわぎ  
おとなははくしゅし  
おんなはざわめき  
おとこはどよめく  
なんのちがいもないさあかす  
さあかすさあかす  
ぞうはおどり  
くまははしり  
むちはうなり  
ひのわはまわる  
なんのかわりもないさあかす  
たけうまのりが  
たまにのり  
ひくいをんなが  
ひをはいて  
ひをわたる  
なんのへんてつもないさあかす  
たのしい  
ゆかいな  
むねおどる  
ゆめのような  
なんのへんてつもないおそろしいさあかす  
ゆめのようにおそろしく  
たのしくゆかいにおそろしい  
むねがはりさけそうな  
なんのへんてつもないじごくのさあかす  
さあかす  
じごくのさあかす

さあかすさあかす  
あさもないよるもない  
まひるのさあかす  
はじまりのないおわりもない  
くるくるまわるだけの  
くらくらさあかす  
いきながらやかれるさあかす  
はてしのないぶらんこ  
まわりつづけるひのわ  
やめろやめてください  
からだをおとしたぶらんこのり  
ゆめからさめたゆめ  
もうゆるしてください  
なんのつみでさあかすされている  
ので  
しょうか  
わたしの  
さあどらむがたたかれる  
たたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたか  
れるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたか  
れるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたかれるたたか  
れるたたかれるただかれるただかれるただかれるおおお・・・おおお・・・ちごくのふたがひらく  
よぞらを見あげるおそろしさ  
ひたすらおちてゆくおそろしさ  
あかいはなのおそろしさ  
うつくしいゆうやけのおそろしさ  
うつくしいはおそろしい  
うつくしいがおそろしい  
おそろしいがおそろしい  
ああおそろしさにつぶされそうだ  
さあさあかすさあかすさあかす  
じごくのさあかす  
このよはさあかすだ

## Venezia

---

街は夜に開かれ  
灯りの下に隠れようと  
身悶えし  
隠れ切れなかった部分が  
狂おしく鳴き声をたてる  
夜の日時計が時を告げる  
ラグーンのほとり  
声は消えて夜を照らす  
ああ、幾度かこのように人は過ぎた  
過ぎて行ったものたちが  
花を奏でる  
暗がりに咲く虹よ  
波打つ月の地平よ  
街は漣の銀器だ  
吊いの席で結婚式が開かれる  
一度は死んだ花嫁が祝言を挙げる  
時が凝縮し、とけあって  
夜の奥底が開かれる

## 夜、花が開く

---

真夜中に水の音がする  
ひとつひとつ花が開く  
しめ忘れた窓から流れこむ  
鮮やかな獣  
打ち棄てられた噴水の夢  
路地裏を流れ落ちる月が  
辺り響き  
自らの重みを思いながら  
夜夜の重みと釣り合い  
静かに沈みこんでいく  
日時計よ  
覚めながら失われていく  
夏の王国よ  
影の移ろいを確かめる  
水の見る夢のように  
時が波打つ



## 香港フラワー

---

君  
の傷口が開く  
午後三時  
照り返し照り返し  
揺れる  
夏の踏切  
焼けた影が忍び寄る  
音もたてずに  
傷口が膿む  
色あせた香港フラワーのように  
街が広がるー

鉄骨が皮膚を焼く  
ビル裏の路地で  
熟れていく窓辺の女

## 知らずうち

---

知らずうちに通り過ぎた風は  
我と我が身を運び去り  
夜がうちに空を駆ける  
終わりの夜汽車。

## 日詩

<http://p.booklog.jp/book/102408>

著者：仲 薫 (leprechaun)

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/geltish/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/102408>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/102408>

表紙画像

Photo courtesy [PDPhoto.org](http://PDPhoto.org)

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ